

第1章

高齢者を取りまく現状・課題

(第1章の要点)

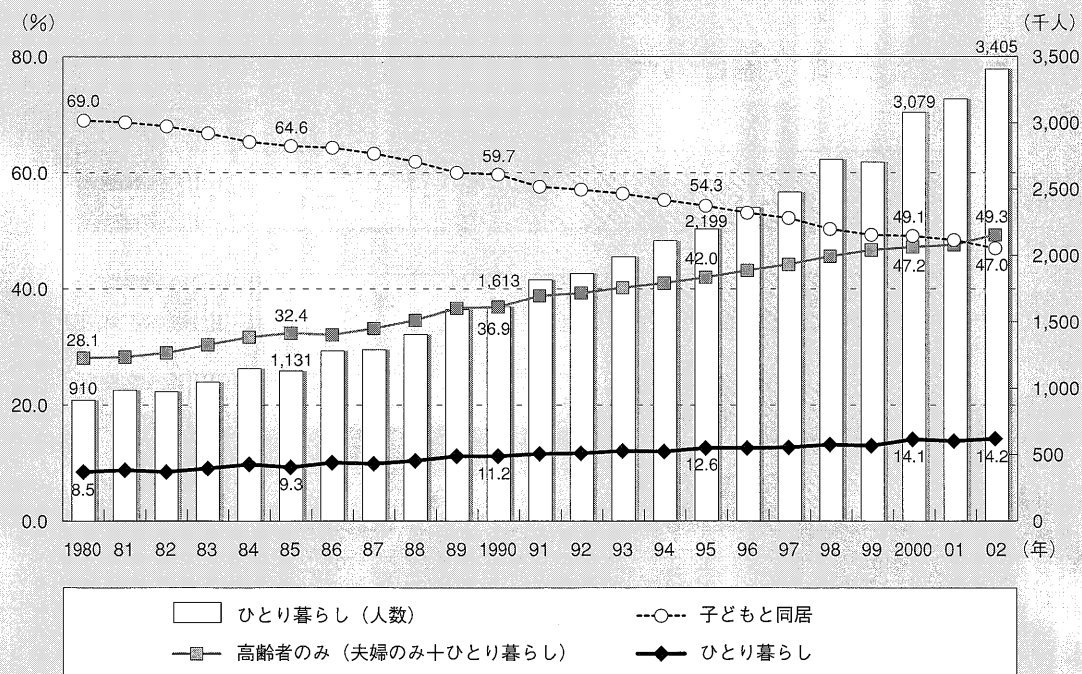
- 高齢者の経済状況は相対的に改善しており、健康に対する意識も高いが、都市部・被用者・男性を中心に地域とのつながりが希薄である例が目立つ。
- 高齢者の就労、社会貢献活動への参加は健康・生きがいづくりにつながっている。
- 介護保険制度の施行後、介護サービス利用量は全体として大幅に増加。今後は、個々人の尊厳が尊重され、残っている能力が最大限に発揮されるよう「個別ケア」が重要。

第1節 高齢者のいる世帯の状況、高齢者の生活実態等

<高齢者と子どもとの同居が減少、高齢者のみの世帯が増加>

- この約20年間にほぼ一貫して高齢者の子どもとの同居率は低下しており（図表1-1-2）、2002（平成14）年には子どもと同居していない高齢者は1,179万人、ひとり暮らしの高齢者は341万人と、この10年でそれぞれ2倍近くに増えている。また、今後、大都市圏を中心に、ひとり暮らしを含めた高齢者のみの世帯が更に増加することが見込まれる。

図表1-1-2 高齢者の子どもとの同居状況（年次推移）



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「厚生行政基礎調査」（1985年以前）および「国民生活基礎調査」（1986年以降）

- 高齢者のみの世帯が増加している背景には、子どもとの同居を必ずしも望んではいない高齢者が増加していることがその要因の一つとして考えられ、図表1-1-4のように、「子どもが近くにいれば別